地域と共生するFFG

熊本県 玉名市

TAMANA CITY

玉名の夜に咲く大輪の花
「玉名納涼花火大会」

県内外から毎年多くのファンが集う、玉名の夏を代表する「玉名納涼花火大会」。

菊池川を挟んで間近に見上げる、絶好のロケーションで観覧することができ、大迫力で幻想的な空間に思わず惹きこまれます。2019年は8月2日（金）開催予定。

（毎年8月第1金曜日に開催）

人と自然が輝き、やさしさと笑顔にあふれるまち　玉名

玉名市は熊本県北西部に位置し２００５年（平成17年）10月、玉名地域１市３町（玉名市・岱明町・横島町・天水町）が合併し、新生「玉名市」として誕生。人口は現在約６万６千人。南北17㎞、東西14・5㎞、市域面積１５２㎢。中央に一級河川菊池川が流れ、南部は有明海に面する田園都市。豊かな自然や数多くの歴史的資源に恵まれています。

産業面では米やミカン・イチゴ・トマト等の農産物や、ノリ・アサリ等の水産物の生産が盛ん。観光拠点として市街地北部、小岱山（しょうだいさん）の麓には１３００余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉、かわって市南部の有明海を臨むみかん園の丘には文豪・夏目漱石の名作「草枕」の舞台で知られる小天（おあま）温泉を有しています。

また、熊本県北の玄関口である九州新幹線新玉名駅を擁する当市は博多まで40分、鹿児島まで１時間、大阪までを３時間半で結ばれ、関西圏が日帰りできるエリアであるほか、九州自動車道、ＪＲ鹿児島本線、有明フェリーなど多様な交通インフラと併せ交通の要衝として、地理的利便性は非常に高いものとなっております。日本

遺産「菊池川流域」や温泉、四季折々の観光スポットを基軸に、観光振興始め県北各都市への広域観光周遊ルートの形成・開発等、『熊本県北の拠点都市』として総合的な発展が大いに期待されています。　寄稿：玉名市

玉名大俵まつり　2019年11月23日（土・祝）開催

ようこそ、玉名へ

玉名観光ではずせないのが、「湯めぐり」。市内には、長者伝説の湯 玉名温泉、夏目漱石の代表作『草枕』の舞台となった小天温泉（玉名市天水町）があります。あなたも漱石になった気持ちで玉名を楽しんでみませんか。

お腹がすいたら「玉名ラーメン」はいかがでしょう。熊本ラーメンのルーツと言われ、濃厚な豚骨スープと焦がしにんにくの香りが特徴。この味に魅せられた人は数知れません。

蓮華院誕生寺奥之院（世界一の大梵鐘・五重塔）

玉名市公式
観光案内サイト
「タマてバコ」

夏目漱石

玉名ラーメン

玉名市マスコット
「タマにゃん」

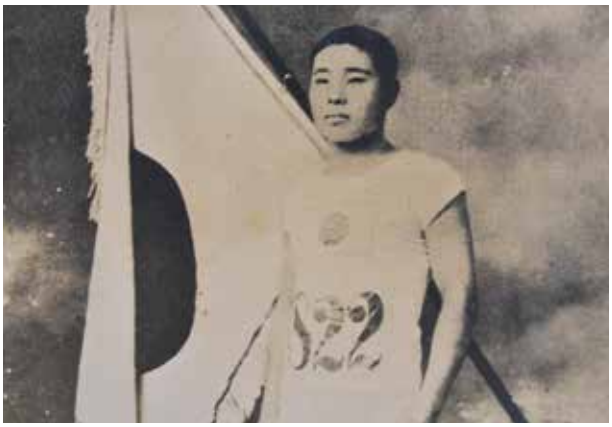
小天温泉（草枕温泉てんすい）

玉名温泉（立願寺公園　しらさぎの足湯）

「韋駄天」と呼ばれた伝説のランナー
金栗四三（かなくりしそう）

2019年大河ドラマの主人公のひとりである金栗四三は、玉名郡春富村（旧三加和町、現和水町）出身で玉名市の名誉市民です。四三は、吉地尋常小学校（現和水町）を卒業したあと、10歳で玉名北高等小学校（現南関町）に入学し、往復12㎞の道のりを、毎日走って通学していました。その後、玉名中学校（現玉名高校）に進学し、クラスで1、2番の優秀な成績で特待生として授業料免除を受けたほどの頭脳の持ち主でした。

オリンピック・ストックホルム大会入場行進（1912年）


オリンピック・ストックホルム大会出場後、ユニフォーム姿（1912年）

そんな四三がマラソン競技と出合ったのは1910年（明治43年）、東京高等師範学校（現筑波大学）でのことです。講道館柔道の嘉納治五郎に才能を見出され、日本のオリンピック初参加に向けた国内予選会で2時間32分45秒という当時の世界記録を27分も縮める大記録を残しました。そして早くも2年後には、日本で初めてのオリンピック選手としてストックホルム大会に出場し、日本全国から注目を浴びました。

「消えたオリンピック走者」

ストックホルム大会のマラソン競技当日は猛暑で、なんとマラソン選手68人のうち34人がリタイアする過酷なレースとなり、金栗四三も日射病やコンディションの悪さにより、26・7㎞地点でコースを外れたまま暫く戻ることができず、行方不明扱いとなってしまいました。このことで四三は、ストックホルムにおいて「消えたオリンピック走者」として語られることとなりました。

しかし、1967年（昭和42年）、75歳のときにスウェーデン五輪委員会から、55年前に果たせなかった四三のゴールインが計画された55周年記念行事への招待を受け、会場の大きな拍手に包まれ、四三は「54年と8カ月6日5時間32分30秒3」のタイムで、第5回ストックホルム五輪のゴールを果たしました。この記録は、世界で最も遅いマラソン記録として語られています。

55年越しのゴール（1967年）

金栗四三のふるさと玉名

青春時代と後半生の約50年を当市で暮らした金栗四三の魅力を全国に広め、また多くの方々に来訪していただけるよう、熊本県内外でのPR活動や来訪者の受け入れを推進し、市内には住家やお墓、遺品を収蔵・展示する歴史博物館やドラマ館など、観光スポットが充実しています。

今年は、大河ドラマを契機として当市の魅力を全国に発信し、地域の活性化に繋げる「玉名市飛躍の元年」として邁進していきます。

写真:玉名市提供

住家写真

案内をされる地元の方々

金栗四三の住家・資料館

金栗四三が晩年を過ごした築120年の家。内部を玄関や縁側から見学できます。隠居部屋として建てられた離れは金栗四三資料館となっており、ここでしか見ることのできない写真や遺品が展示されています。また、近くには妻スヤや養母幾江など家族と眠るお墓があり、金栗の格言「体力・気力・努力」の文字が刻まれた記念碑も建っています。小田地区金栗四三PR推進部会の方々による案内もあり、地元ならではのエピソードも聞けると好評です。

金栗四三のエピソードにまつわる「4×3LEMONADE」

金栗四三が1912年にストックホルムでのマラソン競技中に猛暑のためリタイアした際、現地の方から介抱され振る舞われたとされる「ラズベリーのレモネード」。このエピソードをヒントに、金栗四三ゆかりの地である玉名市、和水町、南関町の代表的なフルーツ4種（みかん、いちご、巨峰、キウイフルーツ）を主とする地元の特産品を使用した「4×3LEMONADE（よんさんれもねーど）」が販売されています。

金栗四三のエピソードに触れ、同氏ゆかりの地の特産品を味わい、各店舗で工夫を凝らした「4×3LEMONADE」をご賞味ください。

4×3レモネードが飲めるお店はコチラから!

地域の店舗が連携。店舗ごとにオリジナルレモネードを提供しています。

金栗四三ゆかりの地を巡る無料シャトルバス「金栗四三周遊バス」が運行！

いだてん 大河ドラマ館、玉名温泉、金栗四三ゆかりの地である小田地区（金栗四三の住家・お墓）、玉名市立歴史博物館こころピア、などを巡ります。この機会に〝日本マラソンの父〟金栗四三の足跡をたどってみませんか。

「いだてん　大河ドラマ館」…2020年1月13日まで開館中。金栗氏の偉大な功績や人柄を紹介。ロケのメイキング映像のほか、出演者の衣装等も展示。ドラマの進行にあわせ一部展示内容も変わります。

「玉名市立歴史博物館こころピア」…企画展「金栗四三展　とつけむにゃー展示ばい!」開催中。2020年1月13日まで金栗氏の資料約1,000点を3期に分けて展示。

ふるさと納税による まちづくり

当市は現在、移住定住・地域公共交通・情報発信（広報）などの地域活性化・魅力発信の業務を推進する中、ふるさと納税の業務にも注力し、地域の活力を創造すべく受入額増加に向けた施策に積極的に取り組んでいます。

返礼品の種類の大幅な増加や複数のポータルサイトの活用など、寄附者の利便性の向上を推進。また、当市は日本マラソンの父・金栗四三のふるさととして、寄附金の使い道のメニューに「マラソンによるまちづくり」を設けています。

金栗四三が使用した足袋（裏には“金栗たび”と“ハリマヤ”の刻印）

再現されたランニング足袋 KANAKURI（ふるさと納税返礼品）

そして、注目すべきは、金栗四三とマラソンに関連した返礼品。その1つ目は、ランニング用足袋「KANAKURI」。金栗四三はオリンピックや数々のレースを足袋で走り、日本マラソン界の礎を築きました。その足袋に着目し、走りのスペシャリストの独創的発想と足袋職人の伝統的な技を融合し限りなく再現されたこだわりの逸品です。

2つ目は、当市に新たに創設されるフルマラソン大会のエントリー権。いずれも当市ふるさと納税の寄附金返戻品の目玉としております。

「日本マラソンの父」のふるさとに 待望のフルマラソン大会、遂に誕生！

日本人初のオリンピック選手、箱根駅伝の創設者としても広く知られる金栗四三。当市の名誉市民でもある彼が主人公として活躍する2019年大河ドラマ「いだてん」の放送を機に、当市はこの感動と彼の偉業・功績を末永く後世に伝えるため、彼にちなんだフルマラソン大会を新しく創設。その名は「玉名いだてんマラソン」。名称を全国から公募し、874件もの応募作品の中から選ばれました。

熊本県北初のフルマラソンとなるこの大会は、広大な横島干拓の田園風景を中心に、有明海沿岸から菊池川下流域沿いを巡る平坦なコースが特徴で、走りやすく記録も出やすくなっています。

金栗四三のスポーツに対する思いとチャレンジスピリットを直系で受け継ぐこの「玉名いだてんマラソン」。全国から多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。